



インスタントメッセージコンプライアンスガイド for Cisco Unified Presence Release 8.0

**Instant Messaging Compliance Guide for Cisco Unified
Presence Release 8.0**

2010年3月10日

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意
(www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)をご確認ください。

本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。
リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。
あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコシステムズおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコシステムズおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコシステムズまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

CCDE, CCENT, CCSI, Cisco Eos, Cisco Explorer, Cisco HealthPresence, Cisco IronPort, the Cisco logo, Cisco Nurse Connect, Cisco Pulse, Cisco SensorBase, Cisco StackPower, Cisco StadiumVision, Cisco TelePresence, Cisco TrustSec, Cisco Unified Computing System, Cisco WebEx, DCE, Flip Channels, Flip for Good, Flip Mino, Flipshare (Design), Flip Ultra, Flip Video, Flip Video (Design), Instant Broadband, and Welcome to the Human Network are trademarks; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn, Cisco Capital, Cisco Capital (Design), Cisco:Financed (Stylized), Cisco Store, Flip Gift Card, and One Million Acts of Green are service marks; and Access Registrar, Aironet, AllTouch, AsyncOS, Bringing the Meeting To You, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, CCVP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Lumin, Cisco Nexus, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Collaboration Without Limitation, Continuum, EtherFast, EtherSwitch, Event Center, Explorer, Follow Me Browsing, GainMaker, iLync, IOS, iPhone, IronPort, the IronPort logo, Laser Link, LightStream, Linksys, MeetingPlace, MeetingPlace Chime Sound, MGX, Networkers, Networking Academy, PCNow, PIX, PowerKEY, PowerPanels, PowerTV, PowerTV (Design), PowerVu, Prisma, ProConnect, ROSA, SenderBase, SMARTnet, Spectrum Expert, StackWise, WebEx, and the WebEx logo are registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1002R)

このマニュアルで使用している IP アドレスは、実際のアドレスを示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、および図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスが使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

インスタント メッセージ コンプライアンス ガイド for Cisco Unified Presence Release 8.0

© 2010 Cisco Systems, Inc.

All rights reserved.

Copyright © 2010, シスコシステムズ合同会社.

All rights reserved.



CONTENTS

CHAPTER 1

IM Compliance の計画 1-1

- Cisco Unified Presence IM Compliance の概要 1-1
- Cisco Unified Presence IM Compliance のコンポーネント 1-1
- IM Compliance 用サンプル トポロジーおよびメッセージ フロー 1-2
- 必要な設定タスク 1-4

CHAPTER 2

IM Compliance の設定 2-1

- Cisco Unified Presence IM Compliance の設定 2-1
- Cisco UP XCP Message Archiver サービスの開始 2-2

CHAPTER 3

IM Compliance Serviceability とトラブルシューティング 3-1

- Cisco UP XCP Router サービスの再起動 3-1
- IM Compliance をサポートするためのトレース レベルの「Info」への設定 3-2
- Cisco Unified Presence IM Compliance 用アラームの設定 3-2

APPENDIX A

サードパーティ製コンプライアンス サーバとの統合 A-1

- サードパーティ製 IM コンプライアンスの概要 A-1
- サードパーティ製 IM コンプライアンスの設定 A-2



CHAPTER 1

IM Compliance の計画

- 「Cisco Unified Presence IM Compliance の概要」 (P.1-1)
- 「必要な設定タスク」 (P.1-4)

Cisco Unified Presence IM Compliance の概要

- 「Cisco Unified Presence IM Compliance のコンポーネント」 (P.1-1)
- 「IM Compliance 用サンプル トポロジーおよびメッセージフロー」 (P.1-2)

多くの業界では、インスタントメッセージが、他のビジネス レコードと同じ適合認定のガイドラインに従うことが求められています。これらの規制を順守するには、ご使用のシステムがすべてのビジネス レコードを記録してアーカイブする必要があり、アーカイブされたレコードが取得可能になっている必要があります。

Cisco Unified Presence は、単一クラスター ネットワーク構成、クラスター間ネットワーク構成、または連動ネットワーク構成における次の IM アクティビティ用のデータを収集して、インスタントメッセージング (IM) コンプライアンスに対するサポートを提供します。

- ポイントツーポイント メッセージ
- グループ チャット：これには、Ad-hoc または一時チャット メッセージと、常設チャット メッセージがあります。

Cisco Unified Presence IM Compliance のコンポーネント

Cisco Unified Presence IM Compliance には次のコンポーネントがあります。

- Cisco Unified Presence サーバ Release 8.0 : Cisco Unified Presence は、外部データベースへのメッセージのロギングにメッセージアーカイブ コンポーネントを使用します。
- 外部データベース：サポートされる外部データベースの詳細については、『*Database Setup Guide for Cisco Unified Presence*』を参照してください。
- IM クライアント：サポートされるクライアントには、Cisco Unified Personal Communicator などの Cisco クライアント、サードパーティ製 XMPP クライアント、および連動ネットワークで使用されるその他のサードパーティ製クライアントがあります。



(注)

Cisco Unified Presence IM Compliance には、基本的な IM ロギング ソリューションが用意されています。ポリシーに基づいたロギングなどの、きめ細かなロギング ソリューションを必要とする場合は、サードパーティ製のコンプライアンス ソリューションを使用します。詳しくは付録を参照してください。

関連項目

- 『Database Setup Guide for Cisco Unified Presence』
- 「サードパーティ製コンプライアンス サーバとの統合」(PA-1)

IM Compliance 用サンプル トポロジーおよびメッセージ フロー**(注)**

ここに示す外部データベース要件は、ご使用のサーバの容量により異なります。

Cisco Unified Presence IM Compliance は、コンプライアンス関連のすべてのデータを外部データベースに記録します。すべての IM トラフィックは Cisco Unified Presence サーバを通過し (Message Archiver コンポーネントを経由)、同時に外部データベースに記録されます。各 IM ログには送信者および受信者情報、タイムスタンプ、メッセージ本文が含まれます。

Ad-hoc グループ チャット メッセージは、デフォルトで Cisco Unified Presence 同じメッセージの複数のコピーを外部データベースに記録し、受信者ごとに 1 通のコピーを記録します。これにより、Ad-hoc グループ チャットでメッセージを受信したユーザが識別されます。

配置した XMPP クライアントに応じて、次の動作にも注意が必要です。

- Cisco Unified Presence は 1 通の受信メッセージを外部データベースに 2 回送信することがあります。これは、一部の XMPP クライアントが、カンバセーション内の他のパーティの完全 JID または完全アドレスを「学習する」機能をサポートしていないために発生します。そのため、XMPP クライアントはメッセージをユーザのすべてのアクティブ クライアント (ユーザが現在ログインしているすべてのクライアント) に転送し、続いて Cisco Unified Presence は、転送されたすべてのメッセージを外部データベースに記録します。
- Cisco Unified Presence は、チャットの最初のメッセージを外部データベースに 2 回記録することがあります。これは、XMPP クライアントがカンバセーション内の他のパーティの完全 JID または完全アドレスを「学習する」まで発生します。

Cisco Unified Presence が外部データベースに接続できなくなった場合でも、ユーザへの IM の送信を続行し、ユーザは引き続き (Ad-hoc) チャットルームを作成できます。ただし、外部データベースに接続していないと、Cisco Unified Presence はこれらの IM のいずれも記録せず、常設グループ チャットをサポートしません。外部データベースに接続していない場合、Cisco Unified Presence はアラームを発生します。

単一クラスタ コンフィギュレーション

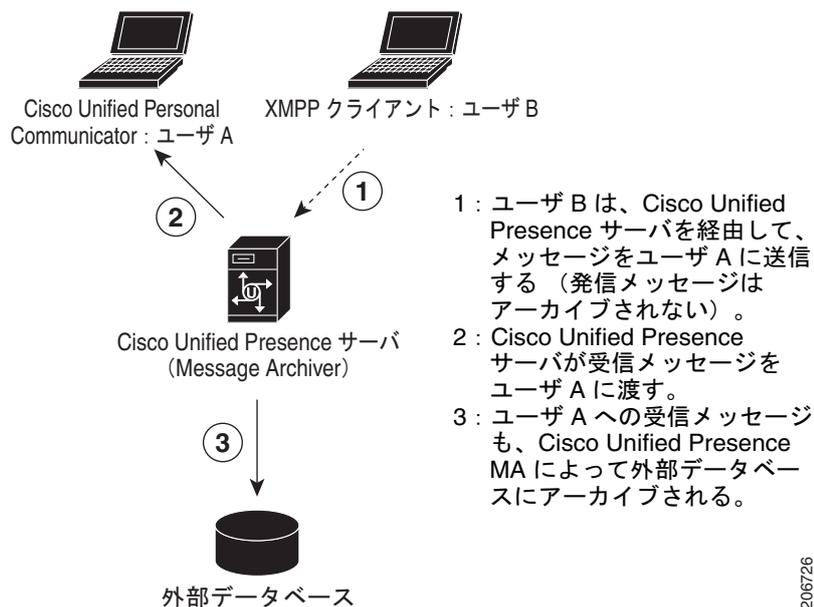
Cisco Unified Presence IM Compliance を単一クラスタで使用する場合は、クラスタ内のユーザに送信されたすべての受信メッセージのログを記録する外部データベースを、クラスタごとに 1 つ導入することを強く推奨します。

**(注)**

- IM Compliance では、クラスタごとに 1 つの外部データベースを導入することを強く推奨します。ただし、ご使用の要件によっては、クラスタごとに複数の外部データベースを設定したり、クラスタ間で 1 つのデータベースを共有することも可能です。
- グループ チャット機能を導入するには、クラスタ内のノードごとに 1 つの外部データベースが必要です。『Database Setup Guide for Cisco Unified Presence』を参照してください。

図 1-1 に、これらのコンポーネントとメッセージ フローを示します。デフォルトでは、Cisco Unified Presence IM Compliance は、受信メッセージを外部データベースに記録しますが、発信メッセージも記録するように設定できます。

図 1-1 単一クラスタ用 Cisco Unified Presence IM Compliance

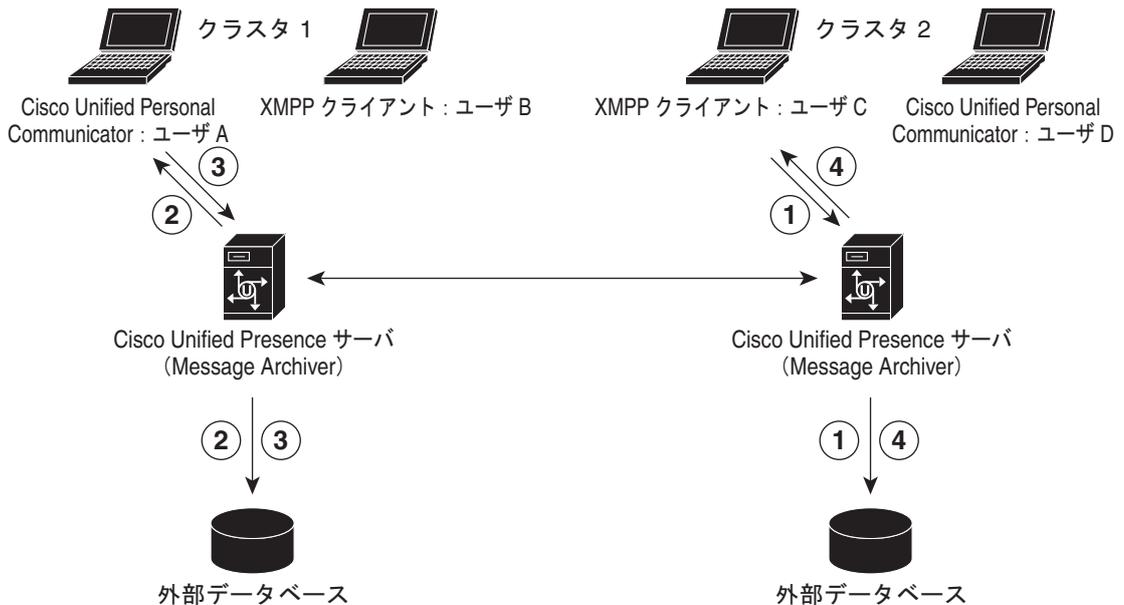


206726

クラスタ間または連動ネットワーク構成

Cisco Unified Presence IM Compliance をクラスタ間または連動ネットワーク構成で使用する場合は、クラスタごとに 1 つの外部データベースを設定する必要があります。さらに、受信メッセージと発信メッセージの両方を記録するように、Cisco Unified Presence サーバを設定する必要があります。この設定を行わないと、各データベースにはカンパセーションの片側だけが保存されます。図 1-2 に、これらのコンポーネントとメッセージフローを示します。

図 1-2 複数クラスタ用 Cisco Unified Presence IM Compliance



- 1 : ユーザ C は、Cisco Unified Presence サーバ（クラスタ 2）を経由してメッセージをユーザ A に送信する。発信メッセージも、Cisco Unified Presence MA によって外部データベースにアーカイブされる。
- 2 : Cisco Unified Presence サーバ（クラスタ 1）が受信メッセージをユーザ A に渡す。受信メッセージも、Cisco Unified Presence MA によって外部データベースにアーカイブされる。
- 3 : ユーザ A は、Cisco Unified Presence サーバ（クラスタ 1）を経由してメッセージをユーザ C に送信する。発信メッセージも、Cisco Unified Presence MA によって外部データベースにアーカイブされる。
- 4 : Cisco Unified Presence サーバ（クラスタ 2）が受信メッセージをユーザ C に渡す。受信メッセージも、CUP MA によって外部データベースにアーカイブされる。

206727

必要な設定タスク

このガイドを使用して IM Compliance を設定する前に、次のタスクを実行したことを確認してください。

- 『*Installation Guide for Cisco Unified Presence*』の説明に従い、Cisco Unified Presence サーバをインストールします。
- 『*Deployment Guide for Cisco Unified Presence*』の説明に従い、Cisco Unified Presence サーバを設定します。

- 『*Database Setup Guide for Cisco Unified Presence*』の説明に従い、外部データベースをセットアップします。

関連項目

- 『*Installation Guide for Cisco Unified Presence*』
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6837/prod_installation_guides_list.html
- 『*Deployment Guide for Cisco Unified Presence*』
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6837/products_installation_and_configuration_guides_list.html
- 『*Database Setup Guide for Cisco Unified Presence*』
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6837/products_installation_and_configuration_guides_list.html



CHAPTER 2

IM Compliance の設定

- 「Cisco Unified Presence IM Compliance の設定」 (P.2-1)
- 「Cisco UP XCP Message Archiver サービスの開始」 (P.2-2)

Cisco Unified Presence IM Compliance の設定

この設定はクラスタ内のパブリッシャ ノードで実行することを推奨します。

始める前に

- サポートされる外部データベースを 1 つ以上インストールして設定してください。『*Database Setup Guide for Cisco Unified Presence*』を参照してください。
- Cisco Unified Presence で外部データベースを設定します。[Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration)] > [メッセージング (Messaging)] > [外部データベース (External Databases)] の順に選択します。
- Cisco UP XCP Router サービスのトレース レベルが「info」以上に設定されていることを確認します。

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration)] > [メッセージング (Messaging)] > [コンプライアンス (Compliance)] の順に選択します。
- ステップ 2** コンプライアンス サーバの選択項目から、[Message Archiver] を選択します。
- ステップ 3** (オプション) [発信メッセージのログgingsの有効化 (Enable Outbound Message Logging)] を選択します。
このオプションを選択すると、IM のパフォーマンスが低下する場合があります。すべての受信メッセージはすでにログに記録されているため、クラスタ間ネットワークまたは連動ネットワークで IM コンプライアンスを使用している場合を除き、この設定を有効にしないでください。
- ステップ 4** 個々のノードについて、外部データベース オプションからデータベースを割り当てます。
クラスタに 1 つの外部データベースを使用している場合は、すべてのノードを同じ外部データベースに割り当てます。複数の外部データベースを使用している場合は、そのデータベースの容量の要件に基づき、データベースにノードを割り当てます。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 6** Cisco UP XCP Router サービスを再起動します。

関連項目

- 「IM Compliance をサポートするためのトレース レベルの「Info」 への設定」 (P.3-2)
- 「Cisco UP XCP Router サービスの再起動」 (P.3-1)
- 「IM Compliance 用サンプル トポロジーおよびメッセージ フロー」 (P.1-2)

次の作業

「Cisco UP XCP Message Archiver サービスの開始」 (P.2-2)

Cisco UP XCP Message Archiver サービスの開始

Cisco Unified Presence でコンプライアンス機能が正しく動作するには、Cisco UP XCP Message Archiver サービスが実行されている必要があります。



(注)

コンプライアンス機能用のノードに外部データベースを割り当てていない場合は、Cisco Unified Presence で Cisco UP XCP Message Archiver サービスの開始が許可されません。

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified サービスアビリティ (Cisco Unified Serviceability)] > [Tools] > [Service Activation] の順に選択します。
- ステップ 2** [Server] リスト ボックスで、サーバを選択します。
- ステップ 3** [Go] をクリックします。
- ステップ 4** [CUP Services] セクションで、[Cisco UP XCP Message Archiver] サービスの横にあるオプション ボタンを選択します。
- ステップ 5** [Save] を選択します。

トラブルシューティングのヒント

Cisco UP XCP Message Archiver サービスが開始できなかった場合で、システム トラブルシューター ([Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unity Presence Administration)] > [診断 (Diagnostics)] > [システム トラブルシューター (System Troubleshooter)] の順に選択) には、外部データベース接続のステータスが問題なしと表示されている場合は、ノードからその外部データベースの割り当てを解除して、再度割り当ててください。

関連項目

「Cisco Unified Presence IM Compliance の設定」 (P.2-1)



CHAPTER 3

IM Compliance Serviceability とトラブルシューティング

- 「Cisco UP XCP Router サービスの再起動」 (P.3-1)
- 「IM Compliance をサポートするためのトレース レベルの「Info」 への設定」 (P.3-2)
- 「Cisco Unified Presence IM Compliance 用アラームの設定」 (P.3-2)

Cisco UP XCP Router サービスの再起動

コンプライアンスの設定を変更後は、Cisco UP XCP Router サービスを再起動する必要があります。

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified サービスアビリティ (Cisco Unified Serviceability)] > [Tools] > [Control Center - Network Services] の順に選択します。
- ステップ 2** [Server] リスト ボックスで、サーバを選択します。
- ステップ 3** [Go] をクリックします。
- ステップ 4** [CUP Services] セクションで、[Cisco UP XCP Router] サービスの横にあるオプション ボタンを選択します。
- ステップ 5** [Restart] をクリックします。
- ステップ 6** 再起動に時間がかかる場合があることを示すメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。

IM Compliance をサポートするためのトレース レベルの「Info」への設定

Message Archiver コンポーネントでは Cisco UP XCP ルータのログ機能を使用されますが、この機能の使用にあたってはトレース レベルが「Info」以上に設定されている必要があります。



(注) Cisco Unified Presence では、Cisco UP XCP ルータのトレース レベルはデフォルトで「Info」に設定されます。トレース レベルを「Info」よりも低いレベルに変更すると、コンプライアンス機能が Cisco Unified Presence で正しく機能しなくなります。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Presence の管理ページにログインします。
- ステップ 2 Cisco Unified Presence のメイン ウィンドウの右上にあるメニューで、[ナビゲーション (Navigation)] > [Cisco Unified サービスアビリティ (Cisco Unified Serviceability)] の順に選択します。
- ステップ 3 [Trace] > [Configuration] の順に選択します。
- ステップ 4 [Server] リスト ボックスから、トレースの設定対象であるサービスを実行しているサーバを選択して [Go] をクリックします。
- ステップ 5 [Service Group] リスト ボックスで [CUP Services] を選択し、[Go] をクリックします。
- ステップ 6 [Service] リスト ボックスで [Cisco UP XCP Router] サービスを選択し、[Go] をクリックします。
- ステップ 7 [Trace On] を選択します。
- ステップ 8 [Trace Filter Settings] で [Debug Trace Level] として [Info] を選択します。

Cisco Unified Presence IM Compliance 用アラームの設定

Cisco Unified Presence と外部データベースとの接続が失われても、ユーザ間でのインスタント メッセージの送信は引き続き可能です。ただし、これらのメッセージはアーカイブされず、どの適合認定のガイドラインも満たされなくなります。この接続が失われたときに通知を受けるためには、この状態に関連するアラームが正しく設定されていることを確認する必要があります。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Presence の管理ページにログインします。
- ステップ 2 Cisco Unified Presence のメイン ウィンドウの右上にあるメニューで、[ナビゲーション (Navigation)] > [Cisco Unified サービスアビリティ (Cisco Unified Serviceability)] の順に選択します。
- ステップ 3 [Alarm] > [Configuration] を選択します。
- ステップ 4 [Server] リスト ボックスで、アラームを設定するサーバを選択します。
- ステップ 5 [Go] をクリックします。
- ステップ 6 [Service Group] リスト ボックスで [CUP Services] を選択します。

- ステップ 7 [Go] をクリックします。
 - ステップ 8 [Service] リスト ボックスで [Cisco UP XCP Message Archiver] を選択します。
 - ステップ 9 [Go] をクリックします。
 - ステップ 10 必要に応じてアラーム設定を行います。
 - ステップ 11 [Save] をクリックします。
-



APPENDIX **A**

サードパーティ製コンプライアンス サーバとの統合

- 「サードパーティ製 IM コンプライアンスの概要」(P.A-1)
- 「サードパーティ製 IM コンプライアンスの設定」(P.A-2)

サードパーティ製 IM コンプライアンスの概要

Cisco Unified Presence IM Compliance の代替として、Cisco Unified Presence をサードパーティ製コンプライアンス サーバと統合できます。このソリューションを使用すると、Cisco Unified Presence がサードパーティ製コンプライアンス サーバにメッセージを正常に記録した後だけ、ユーザにメッセージが送信されます。コンプライアンス サーバが利用できない場合、Cisco Unified Presence は受信者にメッセージを送信しません。

サードパーティ製 IM コンプライアンスには次のコンポーネントが必要です。

- Cisco Unified Presence サーバ Release 8.x : Cisco Unified Presence はサードパーティ製コンプライアンス サーバにメッセージを送信するために Event Broker コンポーネントを使用します。
- サードパーティ製コンプライアンス サーバ : クラスタ内の各ノードにサードパーティ製コンプライアンス サーバが必要です。
- IM クライアント : サポートされるクライアントには、Cisco Unified Personal Communicator などの Cisco クライアント、サードパーティ製 XMPP クライアント、および連動ネットワークで 사용되는その他のサードパーティ製クライアントがあります。



(注)

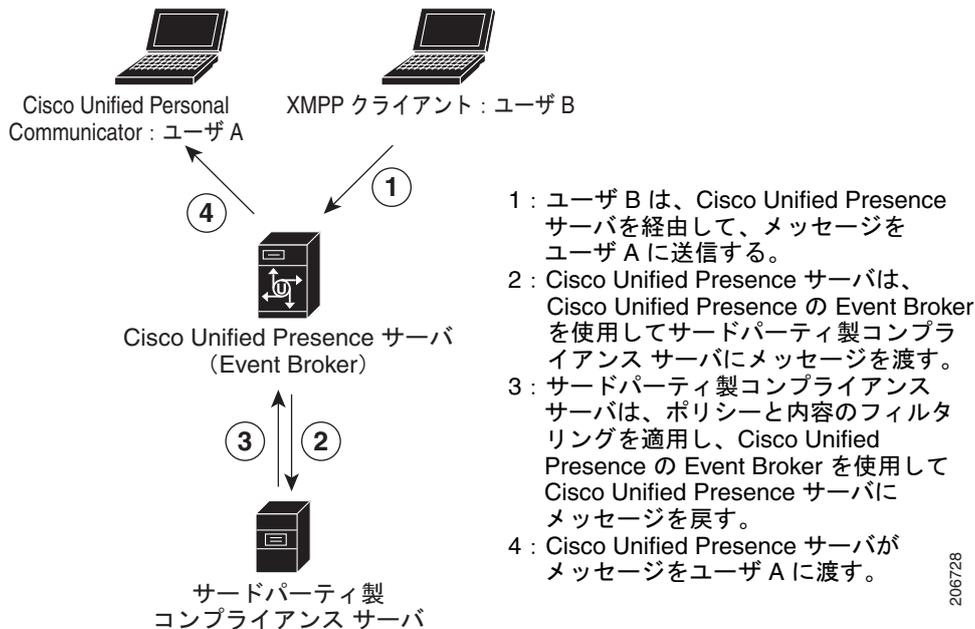
Cisco Unified Presence は、Cisco Unified Presence とサードパーティ製のコンプライアンス サーバ間にはセキュアな TLS/SSL 接続を提供しません。

サードパーティ製のコンプライアンス ソリューションを使用するには、クラスタ内の各ノードごとに、サードパーティ製のコンプライアンス サーバを設定する必要があります。Cisco Unified Presence は、ノードに関連付けられたユーザとの間で送受信が行われたすべてのメッセージを、そのノード用に指定されているサードパーティ製のコンプライアンス サーバに渡します。サードパーティ製のコンプライアンス サーバは、メッセージに関するポリシーまたはフィルタリングがあればすべてを適用し、Cisco Unified Presence にメッセージを戻します。Cisco Unified Presence は受信者にメッセージを送信します。Cisco Unified Presence とサードパーティ製のコンプライアンス サーバとの間で受け渡されるメッセージの量によっては、ネットワークでパフォーマンスの遅れが発生する可能性があることに注

意してください。Cisco Unified Presence とサードパーティ製コンプライアンス サーバとの接続が失われると、すべての IM トラフィックが停止します。図 A-2 に、これらのコンポーネントとメッセージフローを示します。

図 A-1

図 A-2 サードパーティ製 IM コンプライアンス



サードパーティ製 IM コンプライアンスの設定

始める前に

- サードパーティ製のコンプライアンス サーバをインストールおよび設定します。
- 『*Installation Guide for Cisco Unified Presence*』の説明に従い、Cisco Unified Presence サーバをインストールします。
- 『*Deployment Guide for Cisco Unified Presence*』の説明に従い、Cisco Unified Presence サーバを設定します。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration)] > [メッセージング (Messaging)] > [コンプライアンス (Compliance)] の順に選択します。
- ステップ 2** コンプライアンス サーバの選択項目から [サードパーティのコンプライアンス サーバ (Third-Party Compliance Server)] を選択します。
- ステップ 3** サーバの詳細を入力します。
- ステップ 4** (オプション) [パケット サイズ制限の有効化 (Enable Packet Size Limits)] を選択して、サードパーティ製のサーバに転送されるデータの量を制限します。

- ステップ 5** (オプション) [受け付けられるパケット サイズ (Accepted Packet Size)] フィールドにパケット サイズを入力します。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7** Cisco UP XCP Router サービスを再起動します。
-

トラブルシューティングのヒント

次の設定を変更する際には注意が必要です。変更を保存すると、以前の設定はすべて失われます。

関連項目

- 「Cisco UP XCP Router サービスの再起動」 (P.3-1)
 - 「サードパーティ製 IM コンプライアンスの概要」 (P.A-1)
 - 『*Installation Guide for Cisco Unified Presence*』
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6837/prod_installation_guides_list.html
 - 『*Deployment Guide for Cisco Unified Presence*』
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6837/products_installation_and_configuration_guides_list.html
 - 『*Database Setup Guide for Cisco Unified Presence*』
-

